

コミュニケーション行動評価概念「思いやり」の日中比較

陶 琳

The world of the 21st century is multilingual and multicultural. Different people have different values. We need to learn culture of other countries and try to understand other people's sense of values and the evaluating concepts of communicative behavior if we want to make good relationship with others coming from different linguistic and cultural backgrounds. This research tries to clarify one part of the features of the evaluating concepts "consideration for" of communicative behavior in a present-day Japanese and Chinese society empirically. This is done by comparing evaluating words of communicative behavior collected from *People's Daily*, supplemented with thesaurus and some present-day Chinese dictionaries, with the corresponding related vocabulary of Japanese from some present-day Japanese dictionaries. Politeness Grammar submitted by Nam *et al* (2006) is used for this contrastive semantic analysis. This model is used as a frame of the analysis because this can not only describe various Chinese evaluating concepts of communicative behavior but also make comparable in an objective fashion the evaluating concepts of communicative behavior of two languages like Japanese and Chinese, etc.

キーワード：ポライトネス，対人配慮行動，異文化間のコミュニケーション，コミュニケーション行動評価概念，思いやり

1. はじめに

グローバル化の拡大とともに、異文化間のコミュニケーションでは誤解が頻繁に起こる。誤解は、対話相手の用いる言語の知識が互いに不足していること以外に、文化や社会によって異なる価値体系が原因となることもある。近年、そのような価値体系にかかわる語彙に着目してコミュニケーション行動評価概念 (evaluating concepts of communicative behavior) の対照意味論研究が行なわれるようになってきた (Ide *et al.* 1992; Marui *et al.* 1996; 南ほか 2006)。これらは、いわゆるポライトネスという対人配慮行動にかかわる研究に属する (西嶋 2007)。本稿は、その関連のなかに位置づけられる。

本稿では、中国の重要な新聞の一つ『人民日報』に記載された語彙を基本資料とし、その上、類語辞書や現代語辞書などで補充し、収集したコミュニケーション行動評価語彙を作成した。それに対応する日本語語彙と比較し、それによって現代中国社会で通用しているコミュニケーション行動評価概念の特徴の一部を実証的に明らかにした。

この対照語彙意味論的分析の枠組みとして、南ほか (2006) で提出されたポライトネス・グラマー (Politeness Grammar) を用いる。分析の枠組みとしてこのモデルを用いるのは、これによって中国語の多様な評価概念が記述できるだけでなく、日本語と中国語という二つの言語のコミュニケーション行動評価概念が客観的な形で比較可能になるからである。

2. コミュニケーション行動評価概念

コミュニケーション行動評価概念とは何か? 日本語では、例えば「親切」「素直」「傲慢」「生意気」といったように、コミュニケーションにおいて自分や相手の行動を肯定的あるいは否定的に評価する概念のことである。これらの概念は、それが使用される社会で「当たり前」とされるコミュニケーション行動を直接的・間接的に説明するものである。したがって、これらを収集し、分析することによって、当該社会の行動規範を明らかにすることができると考えられる (西嶋 2007)。

2.1 先行研究

コミュニケーション行動評価概念に関する研究として、ドイツ語については Hermanns (1993) や Yamashita (2003) が、日本語については

Nishijima (1995, 1996) が挙げられる。また、対照研究では、日米に関しては Ide *et al.* (1992) を、日独に関しては Marui *et al.* (1996) や Kuhlmann (2005) を、日韓については南ほか (2006) を挙げることができる。

このように日米、日独、日韓の比較研究はあるものの、地理的にも文化的にも近いはずの中国語について、日本語と中国語の評価概念に関する対照研究はこれまでなされていない。中国人と日本人の接触が日常的になっている今日、この分野の研究はコミュニケーションの障害を予め防ぐためにも不可欠であろう。日本語と比較される中国語の評価概念は、中国の主要紙の一つ『人民日報』（海外版、2004年～2009年）において人間関係に関わる評価語彙が頻出する可能性の高いコラム記事（「名流」「剪影」「会外見会」「寿星秘訣」「百味人生」「名人專訪」「文芸」「名人書齋」など）約200篇から採取した。そのコラムには例えば次のように評価概念が現われる。

关心员工、依靠员工，依靠团队合力取胜，这是汪海的人心之道。
（『人民日報』（海外版，2009年3月17日））

ここでの“关心员工”（従業員に対して思いやりがある。）は肯定的な評価概念を表わす。したがって、このようにして採取された語彙は、現代中国の言語社会でコミュニケーション行動評価概念として通用していると見なすことができる。

2.2 調査方法

コミュニケーション行動評価概念には例えば「丁寧」「親切」「謙虚」「従順」「親しみ」「思いやり」「協調」などがある。本稿では、日本語と中国語に共通して存在する評価語彙「思いやり」を取り上げて比較する。比較の方法としては語彙意味論的手法を用いる。すなわち、現代語辞書を用いて、この語彙が現代の両言語社会ではどのようなコミュニケーション行動概念を表わすものとして使用されているのかを明らかにする。

2.3 日中コミュニケーション行動評価概念「思いやり」

2.3.1 日本語のコミュニケーション行動評価概念「思いやり」

1998年から2008年まで発行された日本語辞典6冊を用いて、「思いやり」が表現する評価概念を調査した（下線による強調は論者。以下同様）。

「相手の気持ちになって考えてやること（気持ち）。同情すること（気持ち）。思いやる。相手の置かれた立場になって，その心中などを同情的に考える。」（『新明解国語辞典』，2005）

「思いやること，想像。気のつくこと。思慮。自分の身に比べて人の身について思うこと。相手の立場や気持ちを理解しようとする心。同情。」（『広辞苑』，2008）

「他人の身の上や心情に心を配ること。また，その気持ち。同情。想像。推察。思慮。分別。」（『大辞泉』，1998）

「その人の身になって考えること。察して気遣うこと。同情。遠くから思うこと。想像。推量。思いめぐらすこと。思慮。考え。」（『大辞林』，2006）

「相手の気持ち・立場を考えること（心），同情すること。」（『学研現代新国語辞典』，2008）

「（いたわる気持ちで）相手の立場や気持ちを考えること。同情。」（『現代新国語辞典』，2007）

この6冊の辞書すべては，共通して，日本語の「思いやり」を「同情」によって説明している。3冊に共通する説明表現は「相手の立場や気持ちを考えること。」「想像」「思慮」である。2冊に共通する説明表現は「人の身に」である。「同情」は「他人の苦しみ・悲しみ・不幸などを同じように感じ，思いやり・いたわりの心をもつこと。かわいそうに思うこと。」（『大辞林』）によって説明している。あるいは「他人の身の上になって，その感情をともにすること。特に他人の不幸や苦悩を，自分のことのように思いやっていたわること。」である。「思慮」は「いろいろと慎重に考えること。」である。「身」は「地位。身分。立場。」である。

日本語の「思いやり」は人が対象の場合，上位・対等・下位のすべての関係に使える。ただし，「同情する」は対等・下位の者に使われる。「人をいたわる」は弱い立場の人に同情し親切にする，目下の者を慰める・励ます・労うことである。

つまり日本語における「思いやり」は相手をよく観察しながら行動していることが分かる。人のコミュニケーション行動を肯定評価すると、「思いやりのある人」「他人に対して思いやりがある。」「心からの思いやりを示す。」となる。

日本語の「思いやり」に関わるコミュニケーション行動肯定評価語彙はここで13個を収集している。例えば「気がつく」「我が身につまされる」「気が利く」「気配りのある」「察しのいい」「気持ちのわかる」「人の気持ちがわかる」「仁恕」「仁慈」「相手の心を酌む」「身になる」「情け深い」「老人を労わる」である。つまり、他人に配慮する文化の影響で「気」が心に多義化されたと言えよう。

2.3.2 中国語のコミュニケーション行動評価概念「思いやり」

日本語の「思いやり」を中国語に訳すと「(同情(思いやる, 同情する, 気の毒に思う, 身につまされる)) 同情心(同情の気持ち), 体谅(他人の気持ちを理解する), 体贴(気遣い), 关心(関心), 关怀(思いやり, 配慮)」である。次に, 上記日本語辞典と質や量の点で比較可能な6冊の現代中国語辞典(1995-2008 発行)を用いて, 日本語の「思いやり」に対応する中国語の「(同情) 同情心」, 「体谅(体谅)」, 「体贴(体贴)」, 「関心(关心)」, 「關懷(关怀)」の評価概念を調査した。

同情「对别人的遭遇或行为表示感情的共鸣」(『当代漢語辞典』2008)

「对别人的不幸遭遇, 产生与之相同的感情。动词」(『現代漢語規範辞典』2004)

「对别人的遭遇或行为表示感情的共鸣或赞同」(『新華漢語辞典』2004)

「对别人的遭遇在感情上发生共鸣」(『現代漢語學習辞典』1995)

「对别人的遭遇在感情上发生共鸣」(『現代漢語辞典』2005)

同情心「对于他人的遭遇, 能在情感上产生共鸣的心理」(『当代漢語辞典』2008)

「对别人的遭遇在感情上发生共鸣」(『現代漢語辞典』2005)

体谅「设身处地为他人着想, 谅解他人的处境或苦衷」(『当代漢語辞典』2008)

「设身处地地给予谅解」(『現代漢語大辞典』2008) (『現代漢語規範辞典』2004)

典』2004)

「站在他人的立场上为他人考虑，而予以原谅」(『新華漢語辭典』2004)

「设身处地为人着想，给以谅解」(『現代漢語學習辭典』1995)(『現代漢語辭典』2005)

体贴「细心地关怀，照顾他人；设身处地为对方着想，使其感到舒适，满意」(『当代漢語辭典』2008)

「设身处地」(『現代漢語大辭典』2008)

「细心地忖度别人的心情和处境，给予关怀和照顾」(『現代漢語規範辭典』2004)

「细心地忖度别人的心情和处境，给予关切和照顾」(『現代漢語辭典』2005)

「体察别人的心情和处境，给予同情和照顾」(『新華漢語辭典』2004)

「细心体会别人的心情和处境，给以关怀和照顾」(『現代漢語學習辭典』1995)

关心「记挂，留心」(『当代漢語辭典』2008)

「(人或事)常放在心上，重视和爱护(愛護)」(『現代漢語大辭典』2008)

「爱惜重视经常挂在心上」(『現代漢語規範辭典』2004)

「对别人或事物的情况及发展表示重视，并给予爱护」(『新華漢語辭典』2004)

「对人或事物时时留心或表示爱护」(『現代漢語學習辭典』1995)

「(人或事)常放在心上，重视和」(『現代漢語辭典』2005)

关怀「(上对下)关心，照顾」(『当代漢語辭典』2008)

「关心，爱护(多用于上对下)」(『現代漢語大辭典』2008)(『現代漢語規範辭典』2004)

「关心」(『新華漢語辭典』2004)(『現代漢語學習辭典』1995)(『現代漢語辭典』2005)

この6冊の辞書は、共通して、中国語の「思いやり」を「关心(関心(を持つ)、気にかける、思いやる)」によって説明している。5冊の辞書に共通しているのは、中国語の「思いやり」を「对别人的遭遇，感情の面で发生共鸣(他人の境遇に感情上に共鳴する)」「设身处地...谅解(この「设身处地」(成語)「他人の立場に身を置いて考える。他人の身になって

考える」…他人の気持ちを理解する」「照顾（配慮する。気配りのある。世話をする。面倒を見る）」という説明である。4冊に共通する説明表現は「细心地付度别人的的心情和处境（他人の気持ちや立場に立って注意深く考える）」「重视和爱护（重視したり、大切に保護したりする）」である。3冊に共通する説明表現は「为人着想（他人の身になって考える）」「给予关怀（配慮をすることを与える）」である。2冊に共通する説明表現は「留心（気をつける）」である。中国語の「思いやり」は「同情」「体」「关」を中心に多義化されたと言えよう。

これらの言葉はそれぞれのニュアンスがある。「同情」は①同情する、思いやる。②他人の行動に賛成する、同感する、共鳴する、共感する。つまり、他人の苦悩、不幸なことに感情上で共鳴する。「体谅（设身处地为他人着想，谅解他人的处境或苦衷）」は相手の身になって了解する、思いやる。（心の中を）酌む、察する、推察する、斟酌する。つまり、人の気持ちを酌む、他人の心を思いやる。他人の気持ちを理解する。了察する、同情する。「体贴（细心体会别人的心情和处境，给以关怀和照顾。同义：关怀／关切）」は（他人の身になって）思いやる。気を遣う。つまり他人の心情と处境、人の心を酌みとる。細かく行き届いた世話をする。「关心（对人或事物时时留心或表示爱护）」は（对人あるいは事物）いつでも関心をもつ。思いやりを示す。「關懷（关怀）」は関心（关心）と同じ意味がある。しかし、この二つの言葉には微妙な相違点がある。「關懷」の使用範囲は狭く、多くは人に対して用い、時に事業にも用いることがある。関心は人にも事物にも用いる。「關懷」は多くの場合、目上から目下に用いられ、あるいは時に同輩間でも用いられる。「关心」にはそのような制限はなく、自分自身に対して用いられることさえある。「關懷」のほうが「关心」よりも重たいニュアンスがある。又、相手あるいは第三者が用いた場合は感激・尊敬の意を含む。

これらの言葉には相違点があるが、その共通点は他人のことに対して関心をもって、考えて行動することである。すなわち、「他人に対して関心を持つ、思いやる」「他人の身になって理解する、思いやる」という「他人志向」、いわゆるポライトネスという対人配慮行動の共通点がある。

中国語に「思いやり」に関わるコミュニケーション行動肯定評価語彙の類義語や同じ意味の表現が多い。中国語の「思いやり」の概念を明らかにするために、他の表現も同様の方法で調べてみた。例えば「体」、「体念」

は「设身处地地为人着想（他人の身になって思いやる）」である。特に目上から目下への心遣い、年輩者から若者への心遣いに対する評価概念が多い。例えば「体下」は「（目上は部下に対して思いやりがある）体贴（思いやる）、关心属下」（部下に対して思いやりがある）である。「体恤」は「细心地体谅，顾惜」「设身处地替人着想，设身处地地给予同情和关怀」（その身になって考えてやる，その身になって同情する）である。「体惜」は「体谅，爱惜。多用于上对下或长对幼」（思いやりが深い）である。「关注」は「关心重视」（関心をはらう）である。「关切」は「十分关心」（強い関心を持つ，（親しみのこもった）配慮をする）である。「关爱」は「关心爱护」「关怀爱护」（関心を持っていたわる）である。「嘘寒问暖」「问寒问暖」は他人の生活に心を配り関心を持ってあれこれ尋ねることである。

ここで収集している中国語に「思いやり」に関わるコミュニケーション行動肯定評価語彙は日本語より多い。例えば「亲切的关怀，体贴入微的关怀，关怀备至」は「心を込めて配慮する。心を込めて思いやりが行き届く。優しい心遣い」である。「给以关怀和照顾」は「配慮をすることと気配りのあることを与える」である。「他是个热心的孩子」は「あの子は思いやりがあって親切な子だ」である。「体贴老人的心境」は「老人の気持ちを大切にする」である。「她心肠好，很能体谅人」は「彼女の気持ちは優しくで，他人の気持ちをよく理解して，同情することができる」である。「她为人很好，很能体谅别人」は「彼女はとてもいい人でよく他人の身になって考えてくれる」である。「他对病人事事关注，家属深为感激」は「彼は病人に何でも関心を持ってあげた。家族は深く感激しました」である。また「富于同情心（同情の気持ちに富む）」「设身处地地表示同情，推己及人（我が身につまされる）」「有眼力见儿（気が利く）」「通晓人情（察しのいい）」「待人宽厚（人に対して（もてなしなどが）手厚い，親切である。思いやりがある）」「心疼着热（「成」相手の苦しみを思いやる。その身になって思いやる：多く夫婦間についていう）」などの表現もある。

2.3.3 コミュニケーション行動評価概念「思いやり」の異同

日本語と中国語の共通点は「他人の身の上になって，その感情をとまにすること。特に他人の不幸や苦悩を，自分のことのように思いやっていたわること。」「他人の立場に身を置いて考える。」「他人の身になって考える」という「他人志向」，いわゆるポライトネスという対人配慮行動であ

る。

異なる点は、日本語には中国語の「照顾（世話をする。面倒を見る）、重視和爱护（重視したり、大切に保護したりする）」のような肯定的評価語彙はない。中国語には日本語の「想像」のような説明表現はない。

2.4 コミュニケーション行動評価概念「思いやりのある」の日中の違い

以上、日本語と中国語のコミュニケーション行動評価概念「思いやり」の類似点と相違点を明らかにした。ここでさらにそれに基づいて類語辞典など（柴田ほか 2002；田ほか 1998；山口 2003；程 2006；董 2007；張 2005）を用いて関連する語彙を補足し、両概念について考察してみたい。

コミュニケーション行動評価概念は、一般に、三つに区分する。ある特定の相手に対して「当然」「当たり前」「普通」に想定する概念を中心に、それからのズレをプラス（肯定）とマイナス（否定）の二方向で考えることができるからである。すなわち、こちらが想定している相手の行動への期待からプラス方向へのズレとマイナス方向へのズレがありうる。この構造を上記のコミュニケーション行動評価概念に基づいて説明しよう。

日本語のコミュニケーション行動評価概念「思いやりのある」について言えば、期待よりもその行動の程度が低い場合、否定的な評価がなされる。「思いやりのない人」「気配りのない」「察しの悪い」「自分勝手な」「わがままな」「情けない」「気が利かない」「つれない」「冷たい」「冷淡だ」「薄情だ」「不人情だ」のような否定的評価語彙がある。これらの言葉はそれぞれのニュアンスがある。「冷たい」は思いやりや人情の薄い様子といえる。「冷たい態度・世間の冷たさを感じる」など、人の様子・態度・表情・言動などが話し手の期待・予想を裏切って、よそよそしい、じゃけんだ、意地悪だといったマイナス評価の主観的印象を表わす。「冷淡だ」は同情心・親切心がなく、人間や人間のしていることに無関心な様子・態度・言動などを表わす漢語的表現で文章語である。相手に対する期待のない場合にも使うことのできる客観的なマイナス評価の言葉である。「薄情だ」は人の気持ちを理解する人情や思いやりに欠ける様子・態度・言動などを表わす主観的なマイナス評価の日常語である。「つれない」はこちらの気持ち・愛情を知っていながら、冷たい・無関心・冷淡な態度・言動をとる相手の様子を指し、多く片思いの場合に使われる主観的なマイナス評価の日常語である。「不人情だ」は「薄情だ」の客観的なマイナス評価の

言葉である（田ほか 1998）。

更に、反対に期待よりもその程度が過剰な場合も否定的に評価され、「お節介」「お節介な人・お節介屋」「大きなお世話」「余計なお世話」「でしゃばる」「差し出る」と判断される。

コミュニケーション行動評価概念「思いやりのある」の中国語対応概念については期待よりもその程度が低い場合の否定評価は「无情（思いやりがない）」「不善于体谅人（思いやりがない）、察觉力差（察しの悪い）」「没有同情心（同情の気持ちがない）」「缺乏同情心（同情の気持ちが足りない）」「没有眼力见儿（気が利かない。よく気がついて心が行き届くことがない）」「不通晓人情（情理をわきまえない）」「待人冷漠（人に冷淡である）」「待人冷淡（人に無愛想である）」「不关心（気かけない）」「冷酷无情（冷酷で思いやりがない）」「任性，自私（自分勝手な、わがままにふるまう）」「冷酷心肠（つれない心）」「冷淡，薄情，冷酷（つれない（無情だ、薄情だ、冷酷である））」である。つまり類義表現や言葉の表現形式が多種多様である。中国語と日本語を比べると、日本語には「同情の気持ちがない」「同情の気持ちが足りない」「冷酷で思いやりがない」のような評価語彙がない。

そして、期待よりもその程度が高すぎる場合の否定評価は「爱管闲事」「操多余的心」である。例えば「那个人是个爱管闲事的人（彼はお節介な人だ）」。中国語に「思いやり」に関わるコミュニケーション行動評価過剰マイナス語彙はプラス評価と期待よりもその程度が低い場合の否定評価よりかなり少ない。

「好事（余計なお節介をする、いらぬ世話を焼く）」「多管闲事（余計なお節介をする、首を突っ込む、お節介、差し出がましい、身の程知らず）」「爱管闲事（余計なお節介をする）」「好多事操多余的心／操多余的心，操闲心（余計な心配をする）」「多事（余計なことをする）」「好事之徒（お節介な人）」であることがわかった。

3. ポライトネス・グラマー

ポライトネスとは、コミュニケーションを円滑に行うために必要な、コミュニケーション参与者間の配慮行動のことである（Ide 1988）。南ほか（2006）で提出されたポライトネス・グラマー（以下 PG）は、コミュニケーション参与者間に社会的接近距離（Social Distance, 以下 SD）と心

理的接近距離 (Psychological Distance, 以下 PD) を仮定することにより言語によって様相が異なるポライトネスの概念を説明するための普遍モデルである。コミュニケーション場面において話者・聴者 (speaker-listener) が自己のポライトネス基準に基づいて行う、次の2種類の行動を説明するものである。一つは、話者側に立った場合の、ポライトネスの具現である。もう一つは、聴者側に立った場合の対話相手によるコミュニケーション行動の解釈・評価である。その要素となる SD と PD は、ある程度の幅を持つものとして定義されなければならない。この幅を、コミュニケーション参加者が、相手との間に想定している、SD および PD の期待値からの誤差を反映するものと仮定する。ここでいう誤差は、コミュニケーション場面において人が持つ、対話相手が社会的・心理的に自分に接近する、あるいは自分から遠ざかる場合の許容範囲を反映する。対話相手が、SD, PD の許容範囲を超えて自分に接近してきた場合、または、自分から遠ざかった場合、人は、相手の行動を、自分が想定する通常性を逸脱したものと判断し、ネガティブに評価する。一方、対話相手から自分までの距離が、この許容範囲内に留まっていると判断される場合、人は、相手の行動をポジティブに、あるいは「当たり前」だと評価する。

このようにして、PG は、話者・聴者それぞれが想定する通常性という枠組みを基準にそのズレを説明することができる。

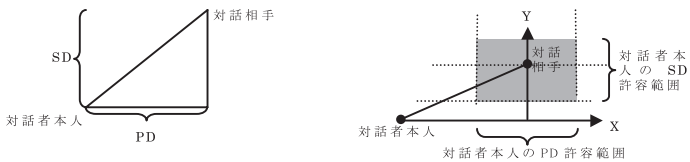


図1 ポライトネス三角形(Politeness Triangle) 図2 SDとPDの許容範囲

対話者本人の位置、対話相手の位置、対話相手の位置から垂直に降ろした直線と X 軸との交点を結ぶと、図1のような三角形が得られる。この三角形を、ポライトネス三角形 (Politeness Triangle, 以下 PT) と呼び、話者・聴者のポライトネス基準としての通常性を記述・説明するための、PG に備わった主要装置であると位置づける。対話者が対話相手との間に想定する SD と PD の許容範囲は、図2のように、PT 表示に組み込まれ

る（南ほか2006）。

4. PGによるコミュニケーション行動評価概念「思いやり」の日中比較

収集された現代中国の言語社会でコミュニケーション行動評価概念として通用していると見なされる語彙は、上記のボライトネス・グラマーの枠組みを利用して記述され、日本語の関連語彙との分布状態と比較する。本稿ではその「思いやり」を取り上げ、日中コミュニケーション行動評価概念の類似点と相違点を例証する。

4.1 日中のPD概念

南ほか（2006）によると、PDにかかわる概念は、任意の話者が対話相手との間に想定するPDの距離によって、次の3種類に分類される。(i) PDの距離が、許容範囲内に納まる場合の評価概念、(ii) PDがコミュニケーション参加者の許容範囲を超えて拡大している場合の評価概念、そして、(iii) PDがコミュニケーション参加者の許容範囲を超えて縮小している場合の評価概念である。本稿では、PD概念の例として「思いやり」を取り上げる。

(i) のケースには、日本語では、「思いやり」のほか「同情」「我が身につまされる」「察しのいい」「気持ちのわかる」「相手の心を酌む」「身になる」「情け深い」などといった評価概念が当てはまり、中国語では、「同情/同情心」「体谅」「体贴」「关心」「关怀」「设身处地为人着想」「推己及人」などという評価概念が当てはまる。また、(ii) のケースには、日本語では、「思いやりのない人」「気配りのない」「察しの悪い」「自分勝手な」「わがままな」「情けない」「気が利かない」「つれない」「冷たい」「冷淡だ」「薄情だ」「不人情だ」などという評価概念が当てはまり、中国語では、「无情（思いやりがない）」「没有同情心（同情の気持ちががない）」「缺乏同情心（同情の気持ちが足りない）」「没有眼力见儿（気が利かない。よく気がついて心が行き届くことがない）」「不善于体谅人（思いやりがない）」「不通晓人情（情理をわきまえない）」「待人冷漠（人に冷淡である）」「待人冷淡（人に無愛想である）」「不关心（気にかけない）」「冷酷无情（冷酷で思いやりがない）」「冷酷心肠（つれない心）」「薄情（つれない、薄情だ）」などという評価概念が当てはまる。

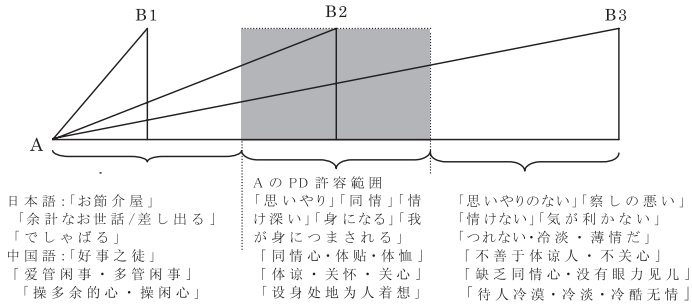


図3 PD概念の日中PT分析

(iii) のケースには、日本語では、「お節介な人・お節介屋」「お節介」「余計なお世話」「でしゃばる」「差し出る」という評価概念が当てはまり、中国語では「好事之徒（お節介な人・お節介屋）」「爱管闲事・多管闲事・好事（余計なお節介をする。差し出る。いらぬ世話を焼く）」「好多事操多余的心的・操闲心（余計な心配をする）」「多嘴闲事（でしゃばる）」「多事（余計なことをする）」が対応しそうだが、これらは評価概念として使うことはまれてある。こうして、日本語と中国語におけるPD概念は、図3のように分布していることになる。

日本語のネイティブ・スピーカーがコミュニケーションの際に想定するPTは、図4のように、3種類に分類される。

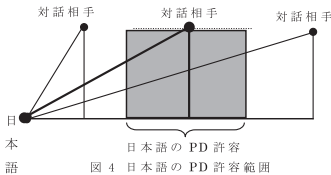


図4 日本語のPD許容範囲

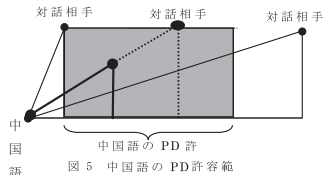


図5 中国語のPD許容範囲

これに対して、図5のように、中国語のネイティブ・スピーカーのPTでは、PDが、日本語のPDのような区分を呈しているが、PDの許容範囲が、X軸上限りなくゼロ方向に近づいていると考えられる。中国語には、PDが許容範囲を超えて縮小するケースを特定するための慣用語彙が

非常に少ない。つまり、「思いやり」は「亲近」の意味を含むことがあり、PDの許容範囲と、許容範囲を超えてPDが縮小するケースとの間に、明確な境界線が引けるかどうか、日本語との違いだと分析されるのである。さらに、中国語において目上の者が目下の者に「关心（関心）」、「体贴入微的关怀」、「关注」、「关爱」、「关切」、「体下」、「体恤」、「体惜」を示すと、評価（親切和藹（優しくて、穏やかである）、平易近人（人柄がきさくで親しみやすい。))はより高くなる。これは、PDとSDが連動している可能性を示唆する例と言えよう。図5の中国語のPDおよびSDの同時縮小がその連動を示している。

「思いやり」という評価概念の日中比較からも明らかになったように、中国語は日本語と似ている。対人関係において人と人との「和」をはかる「他人志向」の言語行為、いわゆるポライトネスという対人配慮行動である。Brown & Levinson (1987: 101-103) のポライトネス理論によると、ポジティブ・ポライトネスの具体的な言語表現として、次の表現方法を挙げる。例えば「①聞き手の関心事や欲求などに気を配る」「⑨聞き手の欲求を理解し、関心を持っていることを示す」「⑮聞き手にギフト（もの、同情、理解、協力）を与える」このBrown & Levinsonの枠組に関連させると、「思いやり」という評価概念は常にポジティブ・ポライトネスに捉えられる。特に中国社会では、「対別人関心体贴是文明礼貌的根本（他人の身になって思いやることは上品で丁寧なエチケットの基礎である）」「能处处体谅他人是成熟人格的表现。（いたるところ他人をその身になって同情できることは熟達した人格を表現する）」という言い方がある。つまり人と人のコミュニケーションの際には、他人の身になって思いやることを重視している。それによって、日本人と中国人の対人関係において働く配慮的な心理がいかに表現されるかを窺い知ることができる。

5. おわりに

本稿では、辞書、ポライトネス・グラマーを利用して、日本語と中国語のコミュニケーション行動評価概念の「思いやり」を比較し、その類似点と相違点の一部を明らかにした。そのモデルが、コミュニケーション行動評価概念の対照を、客観的な方法で可能にするということを示した。しかし、日本語と中国語のコミュニケーション行動評価概念はまだたくさんある。コミュニケーション行動評価概念はそれぞれの文化や社会における

価値観や行動規範と密接な関係がある。それぞれの社会のコミュニケーション行動において他者と適切に協調する仕方を明らかにするために、今後は他の評価概念についても同様の分析を行なう必要があると考えられる。

参考文献

- Brown, P. & Levinson, S. (1987) *Politeness: Some universals of language usage*. Cambridge: Cambridge UP.
- Hermanns, F. (1993) “Mit freundlichen Gruben. Bemerkungen zum Geltungswandel einer kommunikativen Tugend”. In: W.P. Klein/I. Paul (Hrsg.): *Sprachliche Aufmerksamkeit. Glossen und Marginalien zur Sprache der Gegenwart*. Heidelberg: Universitasverlag C. Winter, pp. 81–85
- Ide, S., B. Hill, Y. M. Carnes, T. Ogino, and A. Kawasaki (1992) “The concept of politeness: an empirical study of American English and Japanese”. In: Watts, R. J. et al. (ed.): *Politeness in language: studies in its history, theory and practice*. Berlin / New York: de Gruyter, pp. 281–297.
- Kuhlmann, J. (2005) “Sind Deutsche weniger kooperativ als Japaner?”. In: *Lebende Sprache*. Nr. 2, pp. 68–76.
- Marui, I., Y. Nishijima, K. Noro, R. Reinelt, and H. Yamashita (1996) “Concepts of communicative virtues (CCV) in Japanese and German”. M. Hellinger / U. Ammon (eds.): *Contrastive sociolinguistics*. Berlin / New York: de Gruyter, pp. 385–409.
- 丸井一郎 (2006) 『言語相互行為の理論のために「当たり前」の分析』。三元社。
- Nishijima, Y. (1995) “Über den Bedeutungswandel von “teinei”, —Zum internationalen Vergleich der Konzepte von kommunikativen Tugenden—” 『好村富士彦教授退官記念論文集』, pp. 207–220.
- Nishijima, Y. (1996) “Bewertende Konzepte kommunikativen Verhaltens (BKKV) und sozio-kulturelle Verhältnisse —Ein lexikalischer Ansatz anhand der semantischen Beschreibung in Lexika—” 『教養部論集』 pp. 55–81。
- 西嶋義憲 (2007) 「コミュニケーション行動制御慣用表現の日独比較の試み」 『金沢大学経済学部論集』 第28巻第1号、pp. 183–200。
- 南相環・西嶋義憲・斉木麻利子 (2006) 「ポライトネス・グラマー —コミュニケーション行動評価概念の日韓比較—」 『金沢大学留学生センター紀要』 第5号、pp. 1–19。
- 陶琳 (2008) 「コミュニケーション行動評価概念の日中比較—ポライトネス・グラマーを利用して」 日本言語科学会第10回年次国際大会 [JLS2008] (静岡県立大学) 論文集、pp. 85–88。

Yamashita, H. (1996) “Zu bewertenden Konzepten kommunikativen Verhaltens. — am Beispiel des japanischen Anredeverhaltens-”. 『大阪大学言語文化研究』第22号、pp. 273-294。

参考資料

『人民日報』（海外版）（2004-2009年）。

日本語辞典

市川孝（2007）『現代新国語辞典』（第三版）三省堂。
 金田一春彦・金田一秀穂（2008）『学研現代新国語辞典』（第四版）学研。
 柴田武・山田進（2002）『類語大辞典』講談社。
 新村出（2008）『広辞苑』（第六版）岩波書店。
 中村明・芳賀綏・森田良行（2005）『類語新辞典』三省堂。
 田忠魁・泉原省二・金相順（1998）『類義語使い分け辞典』研究社。
 松村明（1998）『大辞泉』（増補・新装版）小学館。
 松村明（2006）『大辞林』（第三版）三省堂。
 山口翼（2003）『日本語大シソーラス』大修館書店。
 山田忠雄（2005）『新明解国語辞典』（第六版）三省堂。

中国語辞典

程孟輝（2006）『同義詞近義詞反義詞詞典』商務印書館。
 中国社会科学院言語研究所辞典編輯室（2005）『現代漢語詞典』商務印書館（第五版）。
 董大年（2007）『現代漢語分類大詞典』漢語大詞典出版社。
 龔学勝（2008）『当代漢語詞典』商務印書館。
 李行健（2004）『現代漢語規範詞典』外語教学与研究出版社。
 孫天赦（2008）『現代漢語大詞典』崇文書局。
 孫全洲（1995）『現代漢語學習辭典』貧今外語教育出版社。
 『新華漢語詞典』編委會（2004）『新華漢語詞典』（修訂版）商務印書館。
 楊寄洲・賈永芬（2007）『1700 对近義詞語用法对比』北京語言大学出版社。
 張志毅・張慶云（2005）『新華同義詞詞典』商務印書館。